



第一 地勢

玉島町、岡山縣津島郡、中央部南海岸に臨み、四千石あり、有一  
 郡邑、高梁川、隔り、同郡連島町、北、同郡船橋村、長尾村  
 富田村、西、西、半和村、黒崎村、隣接、南、水島、津中、香川郡  
 付多度、丹塩、能登島、相対、而、其、南、南海岸、在、乙島  
 相島、往、者、海中、島、心、下、高、地、信、外、野、下、元、川、一、ル  
 高梁川、中、積、層、以、成、以、平、野、地、味、肥、收、加、二、氣、區、和  
 二、以、米、支、蔬、菜、果、樹、等、栽、植、適、不、水、利、一、部、者、田、池  
 一、扱、外、産、市、津、川、経、流、引、り、田、圃、灌、溉、用、供、せ、り、り  
 早、興、産、物、又、西、南、山、岸、或、百、余、年、前、に、製、塩、地、ア  
 一、今、尚、遺、製、塩、之、所、中、米、一、玉、島、産、之、因、繞、之、市、街、二、千  
 有、多、尚、家、連、接、極、比、在、米、中、國、唯、一、貨、物、集、散、地、ト、シ、

若、今、市、街、之、瓦、斯、電、燈、電、修、電、修、板、備、了、尚、上、水、也  
 敷、設、工、事、之、告、少、傳、信、病、禁、未、推、下、大、災、防、止、之、人  
 顧、察、守、心、之、興、且、尚、實、政、善、風、紀、矯、正、之、計、之、也、所、

各、辰、陸、品、期、待、之、也、

第二 沿革及沿革

玉島町、古昔津島郡、而、由、中、乙、島、相、島、同、國、以、序、故、在  
 一、源、業、命、命、之、正、信、三、年、以、後、亦、漸、次、海、而、埋、玉、島、  
 崎、上、成、玉、島、阿、賀、崎、耕、地、閉、玉、島、産、之、製、塩、之、石、乙、島  
 相、島、二、島、各、六、打、上、之、邊、三、之、大、上、ト、現、今、玉、島、町、形  
 成、シ、タ、ル、也、水、跡、年、間、毛、利、氏、倫、中、一、田、之、願、之、乙、島、相  
 島、其、所、欲、之、尚、天、正、十、年、毛、利、氏、倫、茶、ト、和、成、三、及、乙、島、  
 乙、島、相、島、元、和、五、年、ヨリ、各、國、同、時、城、主、山、崎、千、景、守、所、居、ト、シ、  
 相、島、同、今、年、同、同、山、城、主、也、田、倫、中、守、長、幸、所、居、ト、シ、  
 皇、永、十、五、年、水、島、行、勢、守、勝、隆、松、山、或、三、十、乙、島、相、島、  
 之、段、又、正、信、三、年、水、島、氏、之、事、併、由、新、開、之、望、一、島、三、年

高梁川、築、堤、之、所、水、跡、寺、内、之、埋、之、五、別、二、百、四、十、年、  
 步、之、間、其、上、島、相、島、之、之、段、又、是、天、正、十、年、外、島、同、  
 同、一、同、人、相、島、之、端、阿、賀、崎、ト、玉、島、同、一、段、行、之、海、水、之、  
 大、新、田、之、望、阿、賀、崎、新、田、村、一、号、之、之、領、之、延、享、三、年、勇、崎、  
 押、山、新、田、之、同、望、元、林、七、年、水、跡、寺、内、之、埋、之、五、別、二、百、四、十、年、  
 一、部、之、相、島、一、部、富、田、松、山、城、主、守、藤、河、馬、守、重、傳、領、之、  
 玉、島、村、也、又、上、成、此、時、東、南、崎、村、丹、波、國、龍、山、城、主、青、山  
 伯、耆、守、之、領、之、同、十、五、年、阿、賀、崎、村、乙、島、村、相、島、村、西、京、崎  
 村、三、江、國、濱、新、城、主、松、平、景、隆、守、所、領、之、正、徳、元、年、  
 玉、島、村、内、子、藤、氏、領、地、之、城、因、没、城、主、石、川、主、敏、致、領、之、  
 代、リ、之、之、願、之、正、徳、十、四、年、松、平、景、隆、守、所、領、地、之、再、一、部、守、

# 地勢

玉島町は岡山県浅口郡の中央部南海岸に臨み四十余を有する一都邑にして、高梁川を隔てて同郡(浅口郡)連島町に、北は同郡(明治三十二年村制・昭和十五年町制)船穂村・長尾村(大正十四年町制)・富田村に面し、西は三和利(大正十二年金老町と改称)・黒崎村に隣接し、南水島灘中の香川具仲多度郡塩飽諸島と相對す。而して其南部海岸に在る乙島柏島の往昔海中の島峙なりし高地を除く外、県下三夫川の一なる高梁川の沖積層を以て成れる平野にして地味肥沃、如うる(気候溫和なるも)以て、米・麦・蔬菜・果樹等の栽培に適す。

水利は一部君子の溜池に換るの外、高梁川の緩流を引きて田園灌漑の用に供し、曾く旱災の難にかりしことなく、又西南海岸に二百余年前から製塩地ありて今尚盛に製出し、町の中央にある玉島港を圍繞する市街二十有餘の商家は連橋(軒を連ねる)櫛比(櫛の齒の如く)の如く(まよひなく)し、古來中国唯一の貨物集散地として著わる。

今如市街には瓦斯・電灯・電信電話の設備あり、尚上水道敷設の工事を告げて伝染病の蔓延を拒み、火災を防止し旅人顧客の安心を与え、且商売の改善、風紀の矯正を計りつゝ、あれば町の發展隆昌期して待つべきなり。

# 管轄及沿革

玉島町は昔は浅口郡の南海中の乙島・柏島周囲沿岸に散在する漁村だけであつたが、正保三年(一六四六)以降次第に海面を埋立て、勇崎・上成・玉島・阿賀崎の耕地を開き、玉島港を築造し在来の乙島・柏島の二島を合せて六カ村となり、遂に之を大字として現在の玉島町を形成したものである。

永祿年間(一五五八〜一五六九)毛利氏備中一円を領するに當つて乙島柏島を所領とした。天正十年(一五八三)毛利と羽柴との和議成立で、宇喜多氏の所領となる。慶長五年(一六二〇)関ヶ原の役に宇喜多氏及び徳川氏の所轄となる。

乙島村は元和五年(一六一九)より当国(備中国)成羽の城主山崎甲斐守(家治)の所領となり、柏島は同(元和)六年より同(備中)国松山(高梁)の城主池田備中守長幸の所領となった。

寛永十六年(一六三九)水谷伊勢守勝隆松山城主となり乙島村・柏島村を領有する。正保三年(一六四六)水谷氏が勇崎内新開を墾き、万治二年(一六五九)高梁川に築堤して高梁川の水を海に導き、堤内を埋立て、反別二百四十余町歩(約二四〇ヘクタール)を開拓し、玉島村と号して之を領す。

又寛文六年(一六六六)勇崎外新開を開き、同(寛文)九年柏島北端阿賀崎と玉島間に堤防を築き、海水を止め大に新田を墾き、



阿賀崎新田村と号し之を領す。延宝三年(一六七五)勇崎押山を開墾す。元禄七年(一六九四)水谷出羽守勝美嗣なくして国除せらる。依て其所領悉く徳川幕府の直轄に歸す。

同(元禄)八年(一六九五)玉島村の一部及び柏島の一部は当国(備中国)の松山の城主安藤対馬守重博に領し。玉島村の内及上成・爪崎并に東勇崎村は丹波国亀山の城主青山伯耆守之を領す。同(元禄)十五年(一七〇二)阿賀崎村・乙島村・柏島村・

西勇崎村は遠江国浜松の城主松平豊後守の所領となる。

正徳元年(一七二二)玉島村の内安藤氏の領地は山城国淀の城主石川主殿頭総慶代りて之を領す。享保十四年(一七三九)松平豊後守の所領地は再び幕府の直轄となり倉敷代官所の支配に属す。

延享元年(一七四四)石川氏の領地は松山城主板倉周防守勝澄代りて之を領し。寛延元年(一七四八)玉島村の内及東勇崎村は領主青山氏丹波国篠山に移り。松平紀伊守信岑篠山より丹波国龜山(現龜岡)に代りて之を領す。天保五年(一八三四)及文久三年(一八六三)乙島村の沿海を埋め新田を開墾す。

明治二年(一八六九)封建を廢し郡県制度となり名を以て(大政官布告)諸藩の領地及幕府の直轄悉く倉敷の管轄となる。

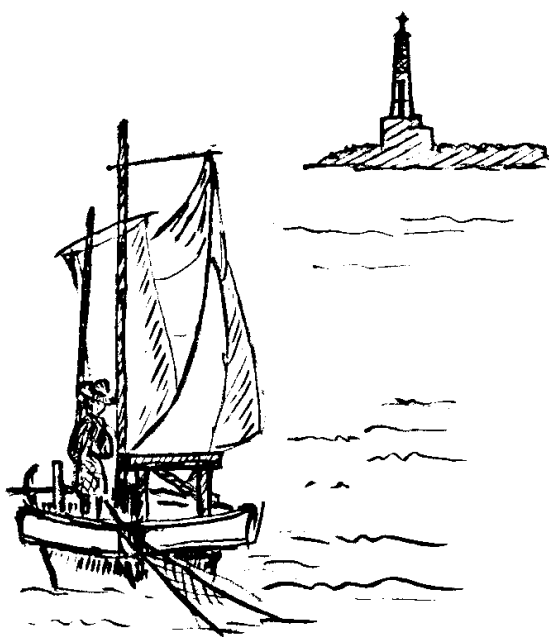
同(明治)四年備後国福山に深津県を置き之を管す。同五年深津県を小田県と改称し当国(備中国)笠岡に庁舎を置く。

同(明治)八年(一八七五)十二月に小田県を廢し岡山県に合併す。

同(明治)九年十月玉島村上成・爪崎を合せて玉島村を置き、東西勇崎村・勇崎浜押山浜を合せて勇崎村となし。同(明治)十年五月勇崎村・柏島村合併して柏島村を置きしむ。十二年十月に至り復旧分裂一再び勇崎村・柏島村となす。

同(明治)十四年九月玉島村を分て玉島村上成村・爪崎村とす。

同(明治)二十二年(一八八九)六月町村制を施行するに當り玉島村上成村を合せて玉島村を置き旧村名は大寺として之を有し。同(明治)三十年五月玉島村・阿賀崎村を合せて玉島町を置き。同(明治)三十五年十月更に玉島町・乙島村・柏崎村を廢し。玉島町を置き旧町村の大寺名は尚之を存して今日に至る。



うたせ舟 と 八幡灯台



# 大正時代中頃の玉島町の戸数人口、気候、産業のようす

人口	現在人口	22,077人
	内 男	10,926
	女	11,151
	本籍人口	22,350
	性別 男	11,451
	女	10,899
	族籍別 士族	169
	平民其他	22,181
戸数	4,215戸	
職業別人数	専業	兼業
農業	9,699	1,572
工業	843	660
商業	5,772	1,624
漁業	389	734
庶其他	329	248
(計)	(17,032)	(4,793)

(大正六年調)

海外渡航者	在留外国人	
渡航地別人数		
北米合衆国(アメリカ)		18人
支那(中国)		20
伊度(インド)		2
英国(イギリス)		0
メキシコ		2
布哇(ハワイ)		1
佛(フランス)		4
和(オランダ)		5
フィリッピン		2
計		54
在留外国人		
佛国(フランス)		1人

(大正六年調)

気候 (大正三年度)		
(浅口郡統計)		
(月)	気温(度)	雨量(ミリ)
1	5.3	27.2
2	5.9	66.3
3	11.8	114.4
4	13.8	109.6
5	21.1	246.7
6	24.7	207.8
7	30.6	97.8
8	30.0	64.9
9	26.3	195.0
10	18.1	106.6
11	13.6	26.3
12	8.5	40.3
	17.5	1,302.9
	(年平均)	(全年総量)

## 降雪 降霜

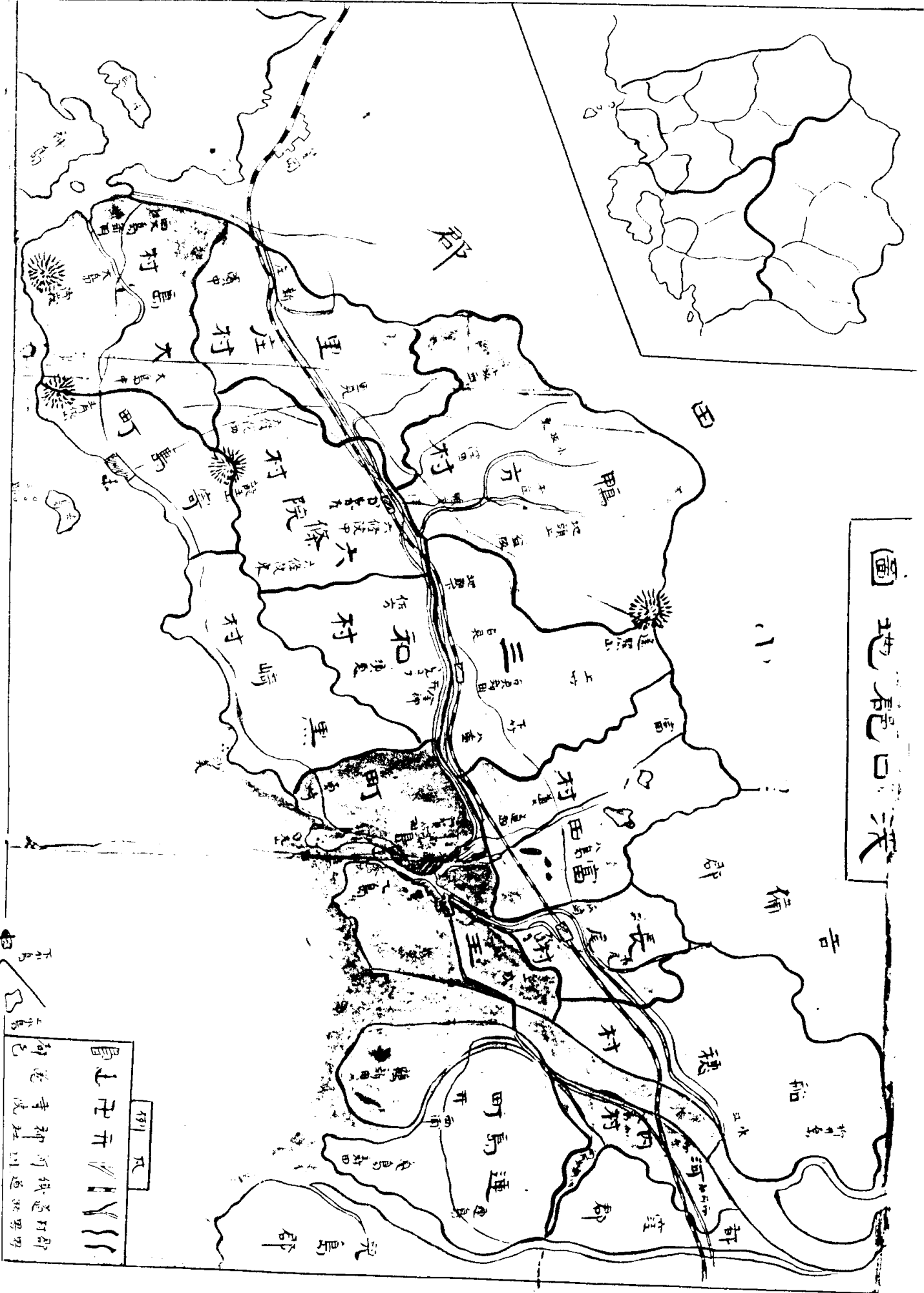
	初日	終日	降雪霜日数
雪	12月15日	4月3日	8日
霜	11月3日	4月10日	43日

産業 (大正七年調)			
	作付反別(町)	収穫高(石)	
農産物	米 562.1	10,793	
	麦 818.2	14,003	
(その他収穫高)			
川豆(あずき)	11,840円	蚕豆(からめ)	8,064円
蕎麦(そば)	21,976	粟(あわ)	21,276
甘藷(さつまいも)	53,662	葡萄(ぶどう)	29,400
漬菜(つけな)	3,500	瓜類(かぼ)	21,852
除虫菊(じゅうじゆ)	22,200	馬鈴薯(いも)	1,080
畜産	牛 117頭		
	鶏 5,890匹	卵 9,074円	

## 生産総額 (大正六年調)

畜産物	20,548円
農	624,009
林	110,230
水	113,801
工	9,956,983
計	10,825,571

# 深口麓地圖



例 尺

島山子开 河 流 寺 郡 社 河 堤 道 打 命

大正八年七月攝之



二十世紀初めの浅口郡勢  
 (町村と人口、主な産業と生産高)  
 (H2.6.1 渡辺作図表)



明治17年(1884)  
 参謀本部陸軍部測量局作成  
 二十万分の一 岡山県全図(復刻)  
 より

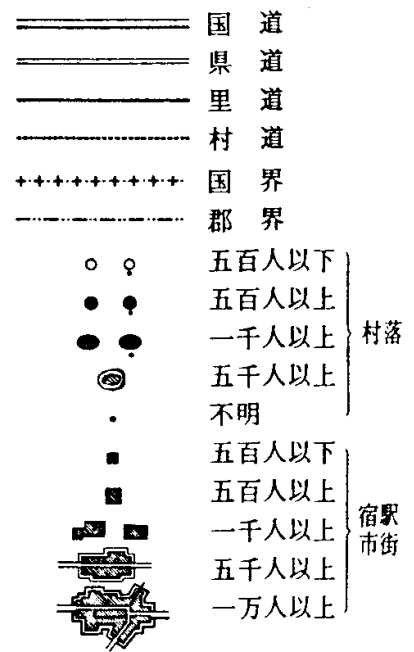
浅口郡の町村と人口 (大正9年国勢調査にに基づく)

河内町 約 4,300人	金光町 約 8,700人
連島町 10,200	鴨方村 8,300
船穂村 5,900	六条院村 5,000
長尾村 3,600	里庄村 5,900
富田村 5,100	寄島町 7,200
玉島町 20,900	大島村 6,400
黒崎村 6,600	総計 98,200

(四捨五入で百位まで)

浅口郡内職業別就業人口 (大正11年調)

農業 約 13,000人 (65%)	水産業 約 1,000人 (5%)
商業 3,000 (15)	その他 1,500 (8)
工業 1,500 (8)	計 20,000 (100)





大正時代

玉島町変遷略記

M30(1897)ごろ 玉島税務署と改称し、新町西へ新築移転(M17徴税出張所として通町東部へ設置された)

M31(1898) 憲兵屯所が通町東に設置された  
何の目的で設置されたのかすべて軍の機密で不明だが、憲兵が屯していた故の名残である。大正の初めごろには厩舎跡らしい建物も残っていたというが、当時玉島第一の繁華街の広場のこと故、軽業、女相撲活動写真などの小屋掛や草相撲などさまざまな催物の場所となった。

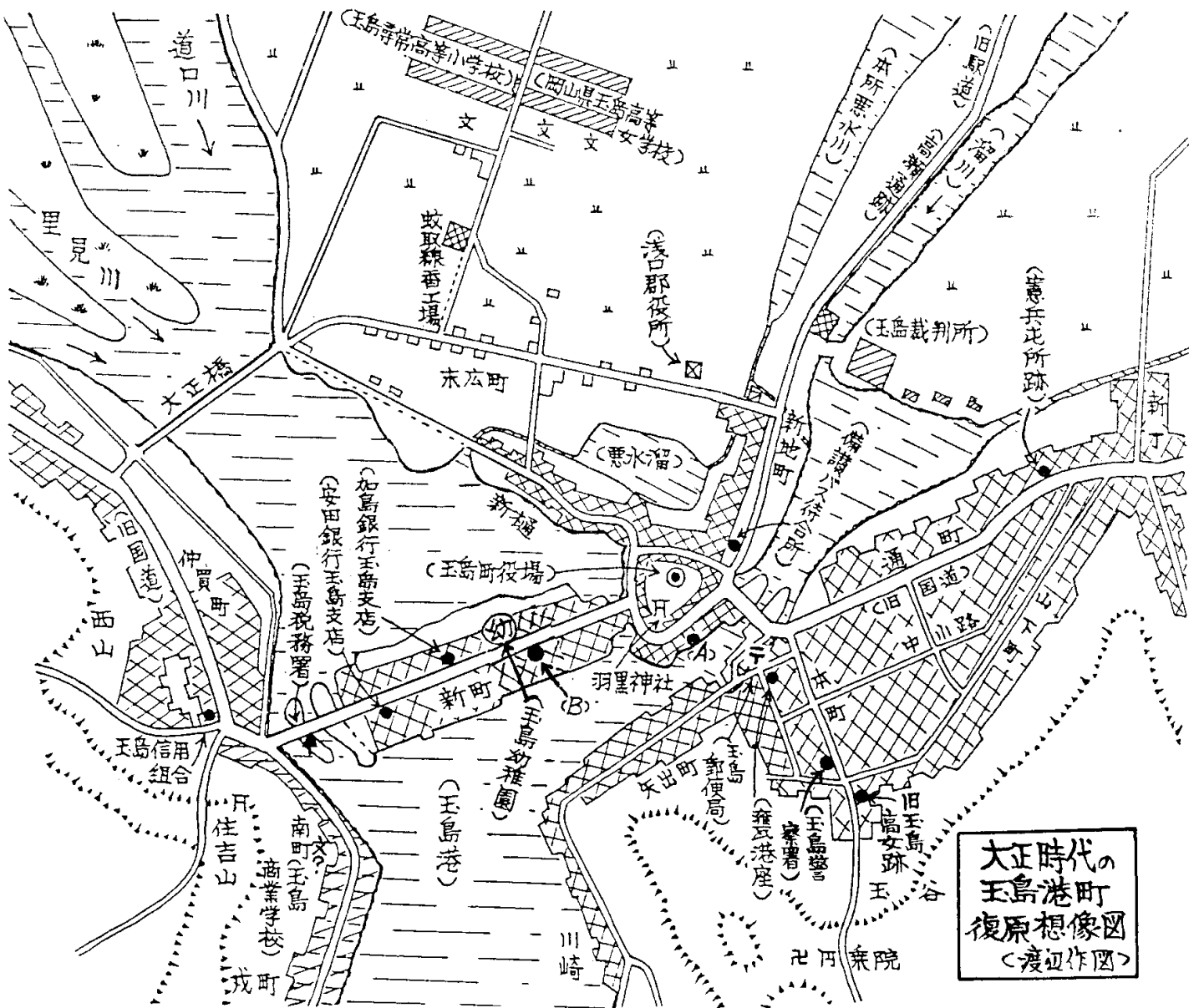
S2 玉島東映昭和館新築開業  
S40代に廃業し、テナヤストアとなったが、それ今は廃業。

M35(1902) 玉島町役場が羽黒山清滝寺を庁舎としてS19まで使用した  
○玉島幼稚園が新町に創立開園(S17まで)

M41(1908) 玉島、阿賀崎両尋常小学校及び玉島高等小学校を統合し、玉島尋常高等小学校(併置校)設立、阿賀崎に新校舎建築。T元建築完了  
・T5前後ごろ「玉併のドルトンプラン」は当時一世を風靡した。  
・また「リーグ運動」も取入れられ、耐寒訓練もさかんであった。

T元(1912)ごろ 玉島市街地に電灯がつく

T3(1914) 玉島信用組合(玉島信用金庫前身)仲買町に新築開業



T5(1916)◦玉島上水道工事完了  
◦このころカチューシャの歌が流行する

T6(1917) 玉島中央物産KK取組線番工場  
阿賀崎に設立操業

T7(1918)◦大正橋架橋  
◦加島銀行玉島支店 新町に開業  
◦スペインかぜ猛流行し、玉島でも  
死者続出する

T8(1919)◦玉島農商補習学校 南町に開設  
その以前 M35 玉島商業補習学校が阿賀崎  
尋常小学校に併設。その後玉島尋常高等小学  
校補習科と改称、さらに玉島農商補習  
学校と改称。(母体玉島商業高等学校の  
前身) ◦このころ鯛焼饅頭、地下  
足袋が出現する

T9(1920)◦第一合同銀行(B)新町に設立  
開業。その後 豊江銀行、玉島銀行、加島  
銀行玉島支店を合併し、S5 中国銀行玉  
島支店として営業。

◦このころゴム靴、玩具スケートが  
出現する。また安来節とどじょう  
掬いが大流行し、素人安来節のど自  
慢大会がさかんに行われた。

T10(1921)◦このころ「高瀬舟舟だまり」が  
埋立てられ、末広町東部の道路が新  
設された(石造りの高石橋もこの時  
取りこわされた)

◦備讃バスKKが創立されて、  
土手町に待合所並に営業所を設置  
し、港町と玉島駅間のバス連絡営  
業をはじめた。このため従来活躍  
していた乗合馬車は姿を消すこと  
になった。

その後 S12 備讃バスKKは解散  
し、両備バスKKが業務を引き継ぐ。

◦このころ京都相撲の幕内力士  
大碓が来住し、子供相撲や青年  
の草相撲が隆盛した。

1 大正10年調による 浅口郡内の鉄道各駅  
のようす

◦1日平均乗客数 ◦1日平均発送貨物量

金光	750人	玉島	55トン
玉島	600	鴨方	35
鴨方	350	西阿知	15
西阿知	350	金光	10
里庄	250	里庄	5

T11(1922)◦浅口郡役所 末広町東部に  
新築移転。(T15 郡制廃止にともなって  
閉庁) S2より玉島警察署が本町  
に移転し、S45まで使用する

◦四国連絡船着場(A)

明治の終りごろから「ポン船」で親し  
まれた堀越丸が玉島・多度津間を  
1日2往復していた。

(大正11年調による)

玉島・多度津間約30kmを所要2時間  
で連絡し、運賃は2等が1円50支  
3等が1円であった。

玉島発 午前7時 午後2時  
多度津発 午前10時30分 午後4時30分

この時期 宇野・高松間では約20kmを  
55分で鉄道連絡船が2隻で運航。  
船内設備が整い、運航回数が多い  
ことから乗客の殆どがこちらの方へ  
流れいった。

T12(1923)◦玉島高等女学校が阿賀崎に新築  
移転する。その以前 M38 玉島裁縫  
専修学校として創立し、上本町の玉島  
尋常小学校に併設され、小学校の移  
転後は玉島高等女学校 新川校舎  
としてT11までの所在地となる。

◦このころから縁日にアイスクリーム  
が出現するようになる

◦安田銀行玉島支店が新町に新  
築開業(S23閉店)

その後 S28~44 玉島信用金庫本店  
そして玉島信用金庫西支店として  
今日に至る



浅口郡役所 (T11~15)

玉島警察署 (S2~45)

- T13 (1924) ◦ 末広町道路が全通する  
 ◦ 中央物産線香工場一部火災  
 ◦ このころから玉島で「ラジオ」が聞かれるようになる  
 ◦ このころ 鯨粕の移入が停止された  
 ◦ 山陽本線が複線化された

- T14 (1925) ◦ 高梁川改修の大工事が完了する  
 ◦ 玉島町人口 20,105人

- T15 (1926) ◦ 乙島坂田新開潮止め堤防完成  
 ◦ 旧霞橋架橋工事着工 (S3 竣工)

旧霞橋

総工費 489,000円 昭和3年竣工  
 長さ 616m 幅約 6m アーチ型鉄橋  
 当時は中国一の長大橋として有名であった  
 自動車時代になってもびくともしない  
 今もなお新霞橋のほとりに雄姿を見ている

郡役所を置く

明治一一年七月、郡区町村編制法を制定、九月には岡山県は一区(岡山)、三一郡、一五二町(岡山・津山・高梁内の各町)、一六三八村に編制された。そして新しく区役所・郡役所を置き、官選の区長・郡長が任命された。これで地方行政系統が一応形をととのえ、大正一五年七月の郡役所廃止まで続いた。

なお明治二二年の町村合併で四五四町村になり、戸長役場は廃止、郡も三三年の合併で一市一九郡に整理された。

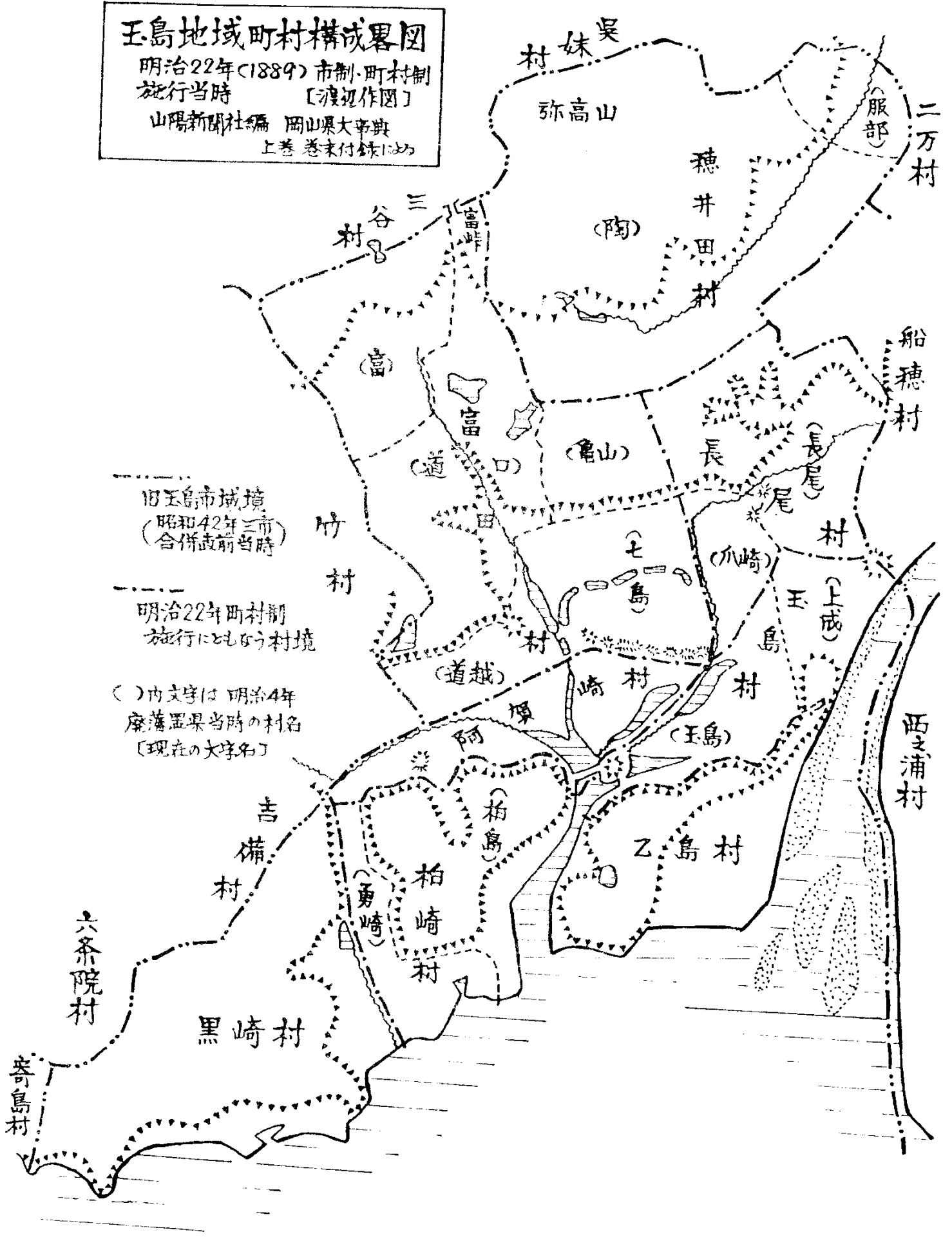


浅口郡役所

# 玉島地域町村構成畧図

明治22年(1889)市制・町村制  
施行当時 [渡辺作図]

山陽新聞社編 岡山県大事典  
上巻 巻末付録1に於



# 玉島上水道

## の設置

大正四年（一九一五）の春に着工し大正五年夏に竣工したといわれる。

上成の田んぼ中に水源

用の井戸を掘り、高梁川の伏流水を汲み上げて浄水し、白銀山頂の貯水槽へポンプで上げる。

これより市街地へ導水管を引き給水するという方法であった。

設置当時の状況は、水道管の約延長約四キロ余、一日の給水量約六百十キロリットル（約六一ロトン）、「最大給水量約千百キロリットル・最少給水量約二百三十キロリットル」。

自家用水道栓三百八十箇、共同用水道栓五百三十箇、消火用栓六十四箇。年間使用料総額が一万四千五百円余（大正九年調）であったという。

上水道が出来るまでは特に海の中に出来た新町・土手町・中島町・新樋などでは、井戸を掘っても塩分の強い水しか得られなかったはずで、飲料用の清水の入手や確保には苦勞したことであろうと考えられる。

最近、新町で江戸時代中頃以後のものと思われる石造りの樋の一部を土中から発見したと聞いた。樋の継ぎ目や要所は「しっくい」でしっくいかといわれているが、今のところ不明である。

## 水道紀功碑を詠む

### ①（碑文の写）

#### 水道紀功碑

正三位勲一等大養毅題額

我玉島町二百餘年前填海開市地質鹹鹵  
難得清水居民久為患焉明治四十五年廣  
瀬正雄君為町長苦心經營鑿井於高梁川  
畔上成受設貯水池於吉浦狐島二所通管  
引水以給人衆大正四年開工翌年六月竣  
工需費六萬八千六百餘圓於是清水豐饒  
居民始免於患矣因立碑以永紀君功德

柚木方啓謨 奥村直康書

新田地帯では農業用水はむしろ人のこと、飲料水にも  
事欠き苦勞して来た。

玉島では近代になって、全国的にも一早く関係者の努力に  
よって上水道が設置された。

②(碑文解説の写)

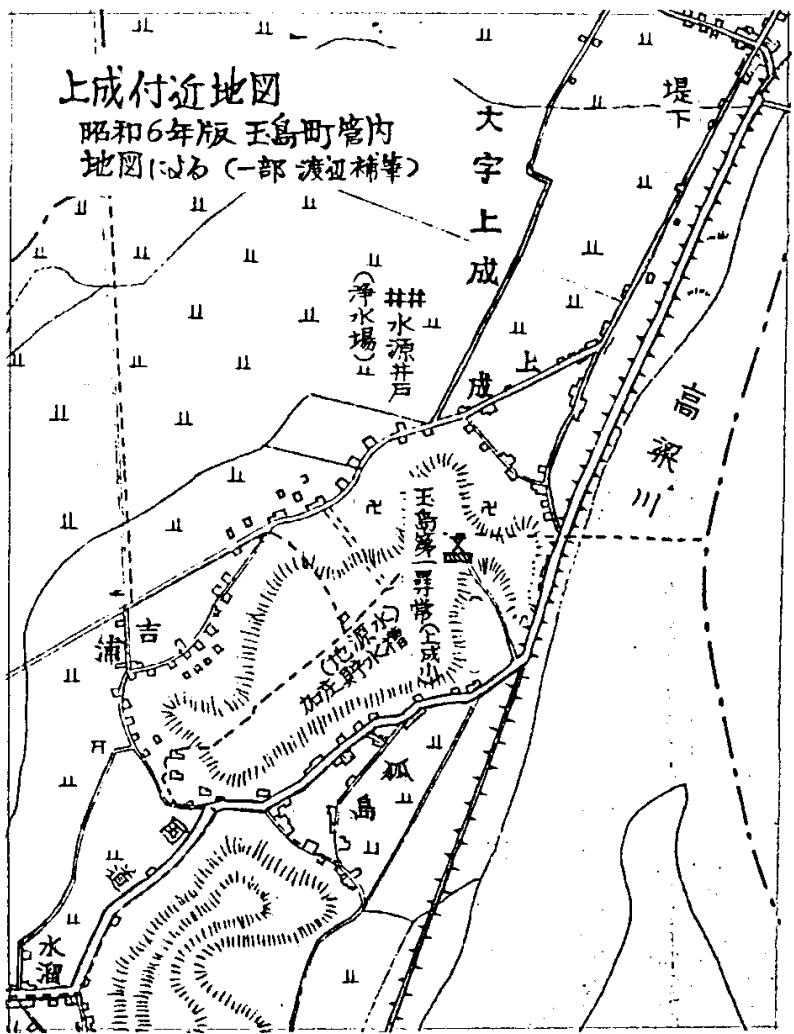
わが玉島町は二百余年ほど前に海を埋めて町をこしらえた  
ところである。だから地質は塩浜であるので、なかなか清水が得ら  
れないため、住んでいる人々は長い間困っていた。

ところが明治四十五年広瀬正雄君が町長になって、いろいろ苦心の末に、

高梁川のほとりの上段に井戸を掘り、さらに貯水池を吉浦・狐島の二ヶ所に  
設け、ここから鉄管で町まで水を引き、人家に給水する計画を立て、

大正四年に着工し翌五年六月に竣工することができた。この工費は六万  
八千六百円余りであった。

こうして清水が豊かに得られたので住民はやっと水の悩みが解消した  
わけである。こういってわけで、碑を立てて、永く広瀬君の功徳を  
志れないようにする次第である。



今、倉敷市水道局 玉島営業所 局舎玄関横に、  
大正十三年十月建立の記念碑が移築復原されて  
いる。

これによっても当時の模様が推察出来る。



玉島港浚渫整備と民間活力

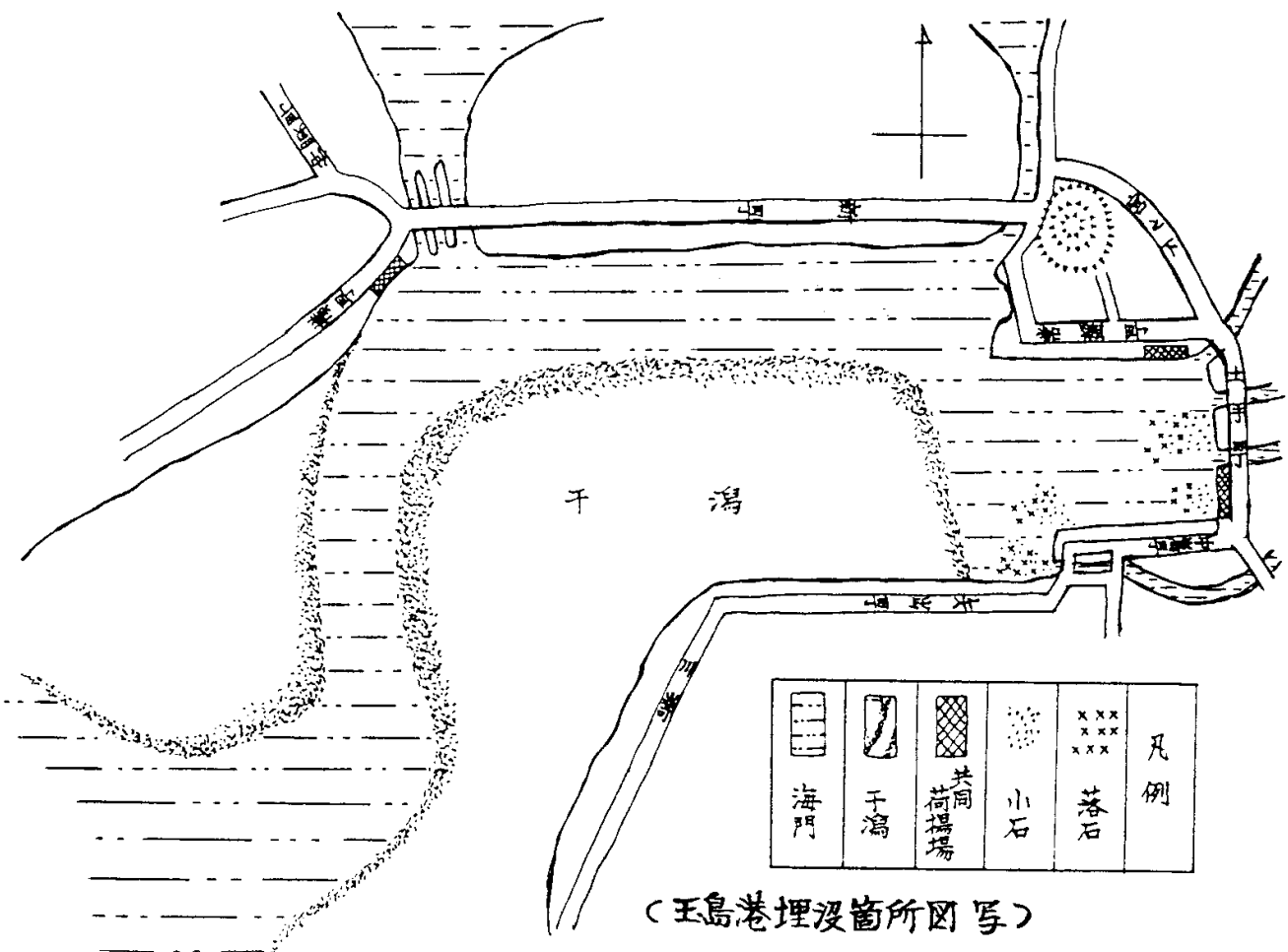
嘆願書

拜呈 春暖の候 大人愈々御清康御勅務の糸  
 恐悦に奉り候。 却説 御承知の如く 我地は  
 天然の良港にして古來荷物の運輸に便し 以つ  
 て商業に多大の好景況を得申しおり候。

然るに年月を経るに連れ 土砂の為港内を埋  
 没しつゝこれあり候。 之れ町民はもとより更  
 に御当局者の人々に深痛を感ぜらるる事に存じ  
 候。

就ては幸 果方より助銀船にて掘土作業いた  
 しおる候えども 区域縮小にして除土より以上  
 の埋土ある義にて 年々港内を浅水ならしむる  
 は誠に遺憾の至りにござ候も また如何ともい  
 たしがたき事にて候。

而して昨今に至り 前紙四面(下四)の箇所  
 において埋没著しく干潮期は数寸余りの浅水とな  
 り 加うるに東共同荷場場付近は捨石の散在す  
 るあり 小舟の碇泊航行ともに至難となり申し



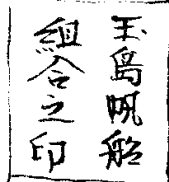
候為 我々乗船業者の困苦と共に各商店の不利甚大と愚考つかまつり 今般之れが掃除の目的を以て前紙寄付金を集め申し候次第にてこれあり候も 之が作業は個人の致すべきことの不可なる義と存せられ申し候につき 前紙図面と寄付金芳名録を差出し申し候につき 此の作業を町営となしおま何分の補助金と成しくだされ候て 一日も早く作業を御履行成しくだされたく願ひ上げ候

先は拙文を顧みず ここに右嘆願奉り候

大正六年四月

頓首再拜

玉島帆船組合



代表者

大島留五郎



高井 哲造



赤澤 柳一



玉島町長

広瀬正雄殿

玉島港浚渫整備資金の寄付芳名録によると、寄付者各自の直筆署名により大口は三十円から小口は七十銭に至る総計二百十二筆、九百三十六円の寄付金が集められている。

寄付者の内訳概要は、各種帆船組合や一杯船主並びに浜方仲仕組合などの海運業者をはじめとして、港町の各種大小の間屋、商店から銀行紡績、銅精煉工場等の企業、さらには一般町民からと幅広い層が支援していることがうかがえる。

ところで大正七年夏には「米価暴騰と米の買占め」「政府や町当局の無策」に怒りを発した米騒動が岡山県下で広がった。

玉島町でも八月十二日と三日と群衆の蜂起により襲撃を受けている。

前年の大正六年には米一升十銭ほどであったものが、翌七年春には一升二十銭、夏には五十銭と高騰したという。

岡山市では米屋が焼打ちに会うなどの騒動となったが、米一升二十五銭から三十銭の安定価格



喜階 改長に付 皆階

何分の 焼捨

夜二は 乾上

各位

(寄付呼びかけの概文)

(寄付芳名録一部写)

金 貳百五圓 玉島 長

金 拾月 本 漢 彦

お返し 儀可也

海岸組

濱方

金 九百圓

金 貳拾圓也

金 拾圓也

計 金 九百貳拾圓也

右金員正に奉領候也

七年二月 玉島 長

拝啓 各位益々御隆盛慶賀奉候  
却説今般我々前紙嘆願書の通り  
発意いたしおる候につき御同情  
くだされ何分の御嬉捨にあずか  
りたく 一入御願い申上げ候

各位